

報道機関 各位

平成 25 年 3 月 8 日

## 【東日本大震災】

# 人と心、まちの復興に向けて

## ～震災発生から2年、継続中の活動をご報告します～

震災発生から 2 年、被災地の復興はまだ充分に進んでいるとはいえない状況の中で、日本赤十字社は、仮設住宅でのこころのケアや高齢者の孤立化の予防、放射線の影響に関する健康管理、子どもたちへの支援などの活動を継続しています。

また、義援金につきましては、平成 26 年 3 月末まで受付を延長し、被災地の義援金配分委員会を通じて被災された方々にお届けしています。

2 年を迎えるにあたり、私たちが継続している主な活動についてご報告いたします。

なお、表中の回数、人数等の数値については、2 月 28 日時点の実績です。

### 海外 100 の赤十字社等からの支援を財源に実施している活動

活動	継続中の事業（実施予定のものは「予定」と明記）
復興に向けた 医療支援	<p><b>【医療のインフラ復興・整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○気仙沼市立本吉病院改修 平成 25 年 3 月竣工予定</li><li>○石巻赤十字病院災害医療総合研修センター、病棟、看護専門学校の建築 平成 28 年 5 月竣工予定</li><li>○公立志津川病院再建 平成 27 年 3 月竣工予定</li></ul> <p><b>【原子力事故対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○浪江町民の健康調査 浪江町と連携し、いわき市内に避難されている約 2,000 名を赤十字の看護師等が戸別訪問し、こころのケア活動と合わせ聞き取り調査を実施。 調査結果を分析し、同町の地域保健対策に活用。平成 25 年 9 月まで実施予定</li><li>○ホールボディーカウンターによる内部被ばく検査の実施 福島赤十字病院では、福島市と連携し高校生（平成 24 年度中に満 16 から 20 歳を迎える方）、妊婦の方、21 歳から 39 歳の方を対象に、今後の健康管理を目的とした内部被ばく検査を実施しています。</li><li>○ホールボディーカウンタの整備（福島県） 放射線による健康への影響について不</li></ul>

	<p>安を抱えながら生活されている方々が、早期に内部被ばく検査を受けられるよう車載式を含む 7 台のホールボディーカウンターを整備します。平成 25 年度整備</p>
こころのケア活動	<p><b>【新しいコミュニティーの中での仲間づくり】</b>          臨床心理士会、ボランティア等と連携し、岩手、宮城、福島県で実施。          仮設住宅を中心に活動：24 年度→55 回実施 対象者延べ 1,447 人。</p>
仮設住宅居住者への支援	<p><b>【ノルディックウォーキングの実施】</b>          仮設住宅での運動不足解消のため実施。（岩手県、福島県）          94 回開催 約 919 人参加（平成 24 年度）</p> <p>〈参加者の声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設の皆さんのが参加していたので、自分も参加してみようと思った。家の中に籠ってばかりいては気分が落ち込むので、積極的に外を散歩しています。</li> </ul> <p>〈ボランティアの声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康促進と仮設住宅の皆さんのコミュニティーづくりのお役に立ちたくて始めました。</li> </ul> 
教育支援	<p><b>【にこにこ健康教室等の実施】</b>          23 回 747 人参加（福島県、平成 24 年度）</p> <p><b>【岩手、宮城、福島の幼稚園から高校へ多様な支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○園児と保護者を対象にこころのケアを実施。（岩手県）</li> <li>○スクールバス 18 台を寄贈。（岩手県、福島県）</li> <li>○サマーキャンプ：平成 24 年 7 月～8 月に被災地域（岩手、宮城、福島県）の小中学生 3,451 人を対象に北海道留寿都村でサマーキャンプを実施。平成 25 年度も実施予定。</li> <li>○すまいるぱーく：移動型の室内遊び場の提供 22,585 人が参加。          福島県内 4 カ所 6 回（相馬市 2、いわき市、白河市、福島市 2）で開催。          平成 25 年度も実施予定。</li> </ul>  <p>〈参加者の声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日にはいつも参加させていただきました。屋内で、幼児がのびのびと遊べる施設がなく、毎日自宅内で過ごしていました。幼稚園は除染してありますが、他の市内の公園は手つかずで、小さい子を遊ばせる場所がなかったので、楽しく遊んでいた子どもたちを見て嬉しくなりました。</li> <li>・毎日、心のどこかで放射線のことを不安に思いながら生活している中で、このような遊び場が子どもたちはもちろん、私もリフレッシュできました。</li> </ul>

## クウェート政府から寄せられた寄付金・総額約 400 億円による支援

被災県が実施する 事業への支援 〔各県により 実施予定〕	<p><b>【岩手、宮城、福島県が実施する被災者支援事業等への支援】</b></p> <p>クウェート政府からの原油寄贈にもとづく約 400 億円を各県に送金。</p> <p>それぞれの地域の事情にあわせた優先度や緊急度に従って以下の 8 分野で活用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域基盤復興 ②医療支援 ③福祉/介護支援</li> <li>④教育支援 ⑤農林水産業支援 ⑥中小企業支援 ⑦雇用支援</li> <li>⑧原発事故の被災者支援</li> </ul> <p>平成 24 年度には、各県とも住宅再建、企業再開支援などをはじめとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岩手県では、三陸鉄道の車両や駅舎の整備、郷土芸能復興支援など</li> <li>○宮城県では、養殖施設や観光施設の復旧など</li> <li>○福島県では、文化財の修復、原発事故被害の中小企業支援など、特色のある活動が実施されます。</li> </ul>
	<p>〈海苔養殖業を営む方の声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災で自宅も工場も船も全て流されてしまい、人生終わったと思った。これからどうやって生計を立てて行こうか考えていた矢先に、補助を受けられることを知り、もう一度海苔の養殖をやってみようと思えるようになりました。</li> </ul>   

### ※活動の財源について

上記二つの表で示した活動は、海外の赤十字から寄せられた救援金 597 億円とクウェート政府からの救援金約 400 億円に基づいて実施されています。

## 義援金(主に国内の個人・法人・報道機関の皆さまから寄せられた義援金)

義援金の受付	<p><b>【義援金の受付等】</b></p> <p>義援金を平成 26 年 3 月末まで受付し、今後とも被災都道県の義援金配分委員会を通じて、被災者にお届けしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付額 3,649 億円 (中央共同募金会受付分を含む) (平成 25 年 2 月 28 日現在)</li> <li>・15 都道県への送金額 3,603 億円 (平成 25 年 2 月 28 日)</li> <li>・被災者への配付額 3,393 億円 (平成 25 年 1 月 31 日)</li> </ul> <p>※義援金は 100%全額が被災地へ送られ、受領証発行等の事務費は、日赤の社員（会員）等からの社費（会費）や寄付で対応しています。義援金は充当していません。</p>
	<p>■本件に関するお問い合わせ先</p> <p>日本赤十字社 企画広報室 TEL / 03-3437-7071</p>